

さらに毎分吐き出し量は、現在市販の散粒機ではシャッター開度のみで調整しきれない場合が多い。すなわちシャッター開度を一段下げると、粒剤の吐き出し状態が不安定になり、散粒機から吐き出されるとき、すでに散布むらが起ってくる。そこで、現在のものは、すべてシャッター開度でなく、特別の微調節が必要であるが、農家にとっては煩雑で再現性がないと思われる。

しかし、10a当たり2kg散布の技術が確立すると、各散粒機メーカーは今後の機械について、シャッターを設計し直し、大改造を行わなくてもこれに追随できる。そして、これらを含めて、将来ともに防除の資材である農薬と散布機が、相互に協力、共同して研究にあたる必要性が大きいのである。

昭和45年度秋冬作、昭和46年度春夏作 芝関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和45年度秋冬作および昭和46年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤の試験成績検討会は、昭和46年11月1日、草松園(神奈川県箱根)において、各試験担当者、専門調査員、委託者多数参集のもとに開催された。

まず、試験担当者より、試験成績の内容につき、詳細な説明を行ない、活発な質疑応答がなされ、引きつづき専門調査員による実用化判定

審査があり、次表の通りの結果となった。

今回は、昭和45年度秋冬作関係で4薬剤、昭和46年度春夏作関係で9薬剤につき審査したが、昭和45年度秋冬作関係でネブロン、C1-IPC、昭和46年度春夏作関係でNTN-5006、NIPの4薬剤が実用化できるものと判定され、一部継続して試験を行なうことになった。

昭和45年度秋冬作・昭和46年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績判定表

I 昭和45年度秋冬作関係除草剤

No	薬剤名	剤型	有効成分名・含有率	判定	理由	委託者
1.	ネブロン	水和	・3-(3,4-ジクロロフェニル)-1-プロピル-1-メチル尿素 60%	実・継	実: 9月末~10月上, 60~80g/a スズメノカタビラ対象 継: 処理時期, 薬量増を検討	デュポン
2.	HOK-107 (グラカット)	乳	・3,4-ジクロロプロピオンアニリド 20% ・2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸-S-エチル 20%	継	広葉(多年性)雑草, 成分混合比率, 薬害について検討	北興化学
3.	I P C (クロロIPC)	乳	・イソプロピル-N-(3-クロロフェニル)カーバメート 45.8%	実・継	実: イネ科雑草対象, 40~60g/a 継: 処理時期, 広葉雑草について検討	クロロIPC 普及会
4.	N I P	水和	・2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェニル-エーテル	継	試験例数不足	三洋貿易 東京有機

Ⅱ-1 昭和46年度春夏作関係除草剤

№	薬剤名	剤型	有効成分名・含有率	判定	理由	委託者
1.	HOK-107 (グラカッ)	乳	・3,4-ジクロロプロピオンアニリド 20% ・2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸-S-エチル 20%	継	試験年数不足, 対象雑草種, 薬害について検討	北興化学
2.	プラスコンS	液	・2,4-ジクロロフェノキシ酢酸ジメチルアミン 30% ・2-メトキシ-3,6-ジクロロ安息香酸ジメチルアミン 20%	継	試験年数不足, 対象雑草種, 薬害について検討	日産化学
3.	NTN-5006 (アミボラス)	乳	・O-エチル-O-(2-ニトロ4-メチルフェニル)N-イソプロピルチオノフオスフォロアミデート 50%	実・継	実: ティフトンシバ, 60~80g/a (キク科雑草多発圃場を除く) 継: キク科雑草除草効果向上につき検討, ベントグラス薬害について検討	日本特農
4.	NIP	水和	・2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェニルエーテル 50%	実・継	実: 70~100g/a 継: 広葉雑草に対する効果, 薬量増等につき検討	三洋貿易 東京有機
5.	NIP化成肥料	粒	・2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェニルエーテル 1.3% ・N 8%, P 8%, K 8%	継	周年防除, 散相回数, 薬量増等につき検討	三洋貿易 東京有機
6.	DPH-711	水和	・1-(2-メチルシクロヘキシル)-3-フェニルウレア 40% ・3-シクロヘキシル-5,6-トリメチレンウラシル 16%	継	試験年数不足, 薬量・混合比率について検討	デュボン
7.	IPC (クロロ-IPC)	乳	・イソプロピル-N-(3-クロロフェニル)カーバメート 45.8%	継	試験年次不足, 処理時期, 薬量増等につき検討	クロロ-IPC 普及会

Ⅱ-2 昭和46年度春夏作芝関係生育調節剤

№	薬剤名	剤型	有効成分名・含有率	判定	理由	委託者
1.	RH-531	水溶	・未公開 0.75% 1%	継	試験年次不足, 作用性・抑制効果等についてさらに検討	三洋貿易
2.	NB-14 (ラビートル)	乳	・N-ジメチルデシルアミンアセテート 50%	継?	効果不足	日本曹達

I 昭和45年度秋冬作芝関係除草剤

害については, 全く認められていない。

大相模カントリーでは, 40g/a, 60g/a

1. ネブロン水和剤

この薬剤は, 昭和44年度より試験されているが, コウライシバを対象にして, 程ヶ谷カントリー, 大相模カントリーの2場所において試験された。昭和44年度の試験では, ベントグラスについても試験され, 薬害もなく有望視されていたが, 昭和45年度の試験ではコウライシバについてのみ試験された。

程ヶ谷カントリーでの試験では40g/a, 60g/a, 80g/aの3区を設けて試験したが, スズメノカタビラに対しては80g/a区でCAT 30g/a区と同等の除草効果が認められた。薬

区では, CATに比してやや除草効果が劣るが80g/a区ではCATと同程度の効果があった。萌芽に対する薬害, 生育抑制は認められない。したがって, スズメノカタビラを対象とし, 9月末から10月上旬, 60~80g/aの処理で実用化できると判定された。なお, 対象雑草の拡大, 処理時期, 薬量増等について検討する必要がある, 一部継続と判定された。

2. HOK-107 (グラカッ) 乳剤

この薬剤は, コウライシバを対象にして, 千葉県農試, 程ヶ谷カントリー, 相模カントリー

の3場所において試験された。

千葉県農試では、 150 g/a 、 200 g/a の2区を設け、スズメノカタビラその他の雑草を対象として試験したが、薬害もなく、各区ともイネ科・広葉雑草に対する除草効果は極大であった。

程ヶ谷カントリーでは、 150 g/a 、 200 g/a の2区を設け、メヒシバ、クローバー、チドメグサを対象にして試験したが、 200 g/a 区で葉先枯れがわずかに認められ、除草効果はクローバーに対して大であるが、メヒシバ、チドメグサに対しては小であった。

相模カントリーでは、 150 g/a 、 300 g/a 、 400 g/a の3区を設け、オオバコ、クローバー、オニハグサ、メヒシバ、チドメグサについて試験した。 150 g/a 区では、薬効、薬害共になく、 300 g/a 区ではメヒシバ、オオバコ、クローバーに対しては効果大であるが、コウライシバに対しても薬害が認められ、葉が黄白色化し、次第に回復した。 450 g/a 区では、除草効果は極大であったが、薬害が大きく、コウライシバも相当枯死した。なお、オニハグサも一時枯れたが、その後回復している。

したがって、広葉雑草に対する除草効果、薬害等につき、引き続き検討を要するものとし、継続と判定された。

3. IPC (クロローIPC) 乳剤

この薬剤については、東京都農試、スリーハンドレットの2場所において、コウライシバを対象として試験された。

東京都農試では 20 g/a 、 40 g/a 、 60 g/a の3区を設けて試験されたが、 $40\sim 60\text{ g/a}$ 区でイネ科雑草に対する除草効果は大～極大で、薬害もあまり認められなかった

が、広葉雑草に対してはあまり効果はなかった。

スリーハンドレットでは、 20 g/a 、 40 g/a 、 60 g/a の3区を設けて試験されたが、 $40\sim 60\text{ g/a}$ 区ではイネ科雑草に対する除草効果は大であり、薬害も認められなかった。

したがって、イネ科雑草を対象とした場合、 $40\sim 60\text{ g/a}$ 区で実用化できるものと判定された。しかし、広葉雑草に対する効果、処理時期等については引き続き検討を要するものとし、一部継続と判定された。

4. NIP水和剤

この薬剤については、東京都農試において、コウライシバを対象として試験された。

薬量 50 g/a 、 70 g/a 、 100 g/a の3区を設けて試験されたが、 $70\sim 100\text{ g/a}$ 区でイネ科雑草に対する除草効果は大～極大で薬害もなかったが、広葉雑草に対しては劣った。

したがって、イネ科雑草を対象とした場合、有望な薬剤であるが、試験例数不足のため継続と判定された。

II-1 昭和46年度春夏作関係除草剤

1. HOK-107 (グラカツト) 乳剤

この薬剤については、栃木県農試、千葉県農試、大相模カントリー、柏ゴルフの4場所において、 75 g/a 、 100 g/a 、 150 g/a の3区を設け、コウライシバを対象として試験された。

栃木県農試では、メヒシバ、カヤツリグサ、ハキダメソウ、ザクロソウについて、除草効果について試験した。 150 g/a 区では、除草

効果は大であったが、薬害がみられた。

千葉県農試でも、 150 g/a 区で除草効果は大であったが、薬害も認められた。

大相模カントリーでは、何れの試験区でも一年生のイネ科・広葉雑草に対し除草効果は大と認められたが、クローバー、オオバコ、ヨモギについては、抑制はするが枯死には至らなかった。薬害は、コウライシバについては認められなかったが、ノシバについては生育抑制が認められた。

柏カントリーでは、 $100\sim150\text{ g/a}$ 区で、メヒシバ、クローバー、ヤハズソウ、チドメグサに対する除草効果は大であったが、 150 g/a で薬害が認められ約 50% の葉が白化した。

したがって、薬害および対象とする雑草の草種について検討する必要がある、継続と判定された。

2. プラスコン S. 乳剤

この薬剤については、程ヶ谷カントリー、高坂カントリー、スリーハンドレットの3場所において、 50 g/a 、 100 g/a の3区を設けて試験された。

程ヶ谷カントリーでは、ヒメコウライシバ、コウライシバ、ノシバを対象とし、薬害試験のみを行なった。14日目の調査ではヒメコウライシバ、コウライシバでは下葉枯れが $20\sim30\%$ みられ、ノシバでは初期にみられた黄化現象もやや消えて回復してきてはいるが、健全部に比して緑色がやや退色している程度であった。

高坂カントリーでは、 $50\sim100\text{ g/a}$ 区とも広葉雑草、とくにチドメ、カタバミ、ミミナグサ等については除草効果は大であったが、

両区とも若干薬害が認められた。

スリーハンドレットでは、各区ともスギナ、ハルジオン、チドメグサに対する除草効果は大であるが、薬害もみられた。

したがって、対象とする雑草草種と薬効、およびシバに対する薬害等につき引き続き検討する必要がある、継続と判定された。

3. NTN-5006 (アミプロホス) 乳剤

この薬剤は、昭和45年度春夏作でコウライシバおよびベントグラスを対象として試験され、実・継の判定を得ている。昭和46年度では草種と薬量については、千葉県農試、東京都農試で、 40 g/a 、 60 g/a 、 80 g/a の3区を設けて試験され、ベントグラスに対する薬害については、程ヶ谷カントリーで試験された。

千葉県農試では、 60 g/a 区ではイネ科に対する除草効果は大、 80 g/a 区ではイネ科・広葉雑草とも除草効果は大であったが、キク科雑草(エノキグサ・タデ)に対しては劣った。

東京都農試では、各区ともイネ科・広葉雑草に対する除草効果は大で、キク科雑草に対しては 40 g/a 区では効果不足であった。なお、本年度の試験では、薬量を増すことにより、キク科雑草に対しても効果のあることがわかった。

程ヶ谷カントリーでは、ベントグラスに対する薬害試験を行なったが、 40 g/a 区では薬害は認められなかったが、 60 g/a 、 80 g/a 区では、1週間後に小さな葉先枯れがみられたが、2週間後には回復した。

この薬剤は、ユウライシバに対してはすでにイネ科雑草を対象して実用化の判定を得ているが、昭和46年度では広葉雑草に対し、キク科雑草を除き $60\sim80\text{ g/a}$ 区で実、キク科雑草に対しては除草効果の向上につき検討を要す

るものとし、継続と判定された。

4. NIP水和剤

この薬剤については、栃木県農試、東京都農試、大相模カントリー、高坂カントリーの4場所で、50 g/a、70 g/a、100 g/aの3区を設けて試験された。

栃木県農試では、コウライシバを対象として試験されたが、50～70 g/a区の除草効果は劣るが、100 g/a区では除草効果は大であったが、コニシキソウ、ザクロソウに対しては効果が劣った。シバに対する薬害については、全く認められていない。

東京都農試では、コウライシバを対象として試験されたが、各区ともイネ科雑草に対する除草効果は極大で、シバに対する薬害は全く認められていない。広葉雑草に対する除草効果に対しては、薬量による効果の差が明らかでない。

大相模カントリーでは、コウライシバを対象として試験されたが、70 g/a区でイネ科・広葉雑草に対する除草効果は大で、シバに対する薬害は全く認められていない。50 g/a区でもかなりの除草効果をあげている。

高坂カントリーでは、コウライシバを対象として試験されたが、100 g/a区で除草効果は大で、薬害は全く認められていない。

したがって、コウライシバを対象とし、70～100 g/a区で実と判定されたが、残効性広葉雑草に対する除草効果についても、引き続き検討する必要性があり、継続と判定された。

5. NIP化成肥料（粒剤）

この薬剤については、栃木県農試、東京都農試、大相模カントリー、高坂カントリーの4場所で、300 g/a、400 g/a、500 g/a

/aの3区を設けて試験された。

栃木県農試では、コウライシバを対象として試験されたが、各区とも薬害は認められなかったが、除草効果は劣り、500 g/a区でも中程度であった。

東京都農試では、400～500 g/a区では、イネ科雑草に対する除草効果は極大であったが、広葉雑草に対しては劣った。薬害については、各区とも全く認められていない。

大相模カントリーでは、コウライシバを対象として試験されたが、400 g/a区で除草効果大で、薬害も全く認められていないが、各区ともアキメヒシバの残存が見受けられた。

高坂カントリーでは、コウライシバを対象として試験されたが、400 g/a区で除草効果大で、薬害は認められていない。

したがって、使用時期、分施方法、薬量増等につき検討を要するものとし、継続と判定された。

6. DPH-711水和剤

この薬剤については、千葉県農試、程ヶ谷カントリー、高坂カントリーで、50 g/a、75 g/a、100 g/aの3区を設けて試験された。

千葉県農試では、コウライシバを対象とし、75～100 g/a区で除草効果は大であったが、イネ科雑草に対してはやや劣っている。しかし、スズメノカタビラに対しては、50 g/a区でも除草効果があった。薬害については、各区とも全く認められていない。

程ヶ谷カントリーでは、コウライシバ、ベントグラスを対象として試験されたが、メヒシバに対する除草効果は、チュパサン（比較薬剤）より劣っている。薬剤については、コウライシ

バでは認められなかったが、ペントグラスでは
75 g/a 区で30%, 100 g/a 区で50
%の葉先枯れがみられた。

高坂カントリーでは、コウライシバを対象と
して試験されたが、各区とも除草効果は劣って
いた。しかし、薬害は認められていない。

したがって、薬量増、混合比率等について検
討する必要があり、継続と判定された。

7. IPC (クロロIPC) 乳剤

この薬剤については、栃木県農試、スリーハ
ンドレットの2場所において、20 g/a, 40
g/a, 60 g/a の3区を設けて試験された。

栃木県農試では、コウライシバを対象として
試験されたが、各区とも薬害は全く認められず、
除草効果は極めて小さく、春季処理は全く期待
できない。

スリーハンドレットでは、コウライシバに対
象として試験されたが、各区とも全く薬害は認
められなかったが除草効果は劣り、わずかにハ
コベ、タデ類等で効果がみられたにすぎない。

したがって、処理時期、薬量増等につき検討
する必要性があり、継続と判定された。

II-2 昭和46年度芝関係生育調節剤

1. RH-531 水溶剤

この薬剤については、程ヶ谷カントリー、大
相模カントリー、高坂カントリー、植調研究所
において試験された。

程ヶ谷カントリーでは、ヒメコウライシバを
対象とし、1.5 cc/m², 2 cc/m², 1.5 + 1.5
cc/m² の3区を設けて試験されたが、1.5 + 1.5
cc/m² 区では抑制率33%を示した。各区とも
シバの葉色がやや退色し、刈り込みにより切口

が茶褐色化した。しかし、第1回の刈り込みを
行なった直後に消滅している。

大相模カントリーでは、コウライシバを対象
として、0.75%, 1.0%, 0.75 + 0.75%,
1.0 + 0.75% の4区(200 cc/m²) を設け
て試験されたが、各区とも抑制効果はなく、
0.75 ~ 1.0% 区では薬害が認められなかった。
0.75 + 0.75%, 1.0 + 0.75% 区では葉先
枯れが認められた。

高坂カントリーでは、ヒメコウライシバに対
象として、0.75 cc/m², 0.75 + 0.75 cc/m²,
1 cc/m² の3区を設けて試験されたが、各区と
も抑草効果は大きく、薬害も認められた。薬害
は、枯死するまでには到らないが、古葉が目だ
ち、全体の密度がおちてしまった。

植調研究所では、コウライシバを対象とし、
0.75%, 1.0%, 0.75 + 0.75% の3区
(200 ml/m²) を設けて試験されたが、各区と
もかなり強い抑制効果があり、無処理区に比し
約50%抑制した。薬量間の差はわずかであっ
た。葉長、葉幅とも短くなり、葉全体が小さく
なる傾向にあった。薬害については、下葉枯れ
がかなり見受けられた。

したがって、試験年次不足により継続と判定
されたが、使用量、抑制効果等につき、さらに
検討することになった。

2. NB-14 (ラビトール) 乳剤

この薬剤については、程ヶ谷カントリー、植
調研究所において試験された。

程ヶ谷カントリーでは、コウライシバを対象
として、2 g/m², 1 g/m², 0.5 g/m² の3区を
設けて試験したが、抑制効果はほとんどなく、
各区ともわずかに薬害がみられたが、2週間後
には恢復している。

植調研究所では100倍液，200倍液，300倍液の3区(300ml/m²)を設け，コウライシバを対象にして試験した。100倍液処理区では，処理後約20日間，草丈抑制がわずかに認められたが，それ以後の効果はみられなかった。200～300倍液処理区では，草丈

抑制の傾向はわずかで，顕著な作用は認められなかった。また，下葉枯れもわずかにみられた。

したがって，シバに対する抑制効果が認められないので，継続?と判定された。

新 登 録 除 草 剤 一 覧

農 林 省 農 政 局 植 物 防 疫 課
昭和46年8月1日～昭和46年10月31日

分類	種類名	商品名	有効成分の種類 および含有量	剤型	適用作物名または適用場所	適用雑 草木名	使用時期	10アール 当り 使用量	使用方法	登録 会社
非ホルモン型除草剤	塩素酸塩 除草剤	クサート ル，デゾ レート	塩素酸ナトリウム 98.5%	水和剤	造林予定地 果樹園 桑畑 開きん地	ヒメシオン，ヒメ ルガオ，ニワホ コリ，ハコベ， スズメノテッポ ウ，ドクダミ， コアサザなど	雑草の生育 が旺盛な時 期	4.5～7kg	10アール当 り200～3 00ℓの水に 希釈して雑草 の茎葉に均一 散布する	保土 谷化 学工 業 日本 カー リッ ト
						メヒシバ，オヒ シバ，ヨモギ， エノコログサ， イタドリ，チガ ヤ，ススキ，カ ヤツクグサなど		6～9		
					水稻(刈取あ と処理) (寒冷地の早 期又は植栽培 地の排水良好 な水田)	マツノイ	水稻刈取後 10日以内	6～8	茎葉処理・ 落水後本剤の所定量を 10アール当り50～ 70ℓの水に溶解して 噴霧機で散布する	
	DCMU 除草剤	ホクコー ダイロン	3-(3,4-ジクロル フェニル)-1,1-ジ メチル尿素 80.0%	水和剤	陸稻，らっか せい，とうも ろこし だいず，あづ ばいしょ， こんにゃく あま(単作) アスパラガス はっか，しょ うが，らっき ょう 冬作麦 さとうきび 茶，桑 果樹	畑作一年生雑 草	播種直後 播種直後 ～発芽前 ～発芽前 ～発芽前 子葉展開期 培土後，萌 芽前，後期 の培土くず し後 萌芽前 植付覆土後 ヤエムグラお よび畑作一年生 雑草	60～100g 70～100 50～100 60～80 100 70～120 60～100 60～70 100～150 100～200 200～400	土 壤 全面散布	北興 化学 工業
							雑草の生育期			